

- 162: 517-534.
- GOFF, L. J. 1979. The biology of *Harveyella mirabilis* (Cryptonemiales, Rhodophyceae). VI. Translocation of photoassimilated ^{14}C . J. Phycol. 15: 82-87.
- HARLIN, M. M. and CRAIGIE, J. S. 1975. The distribution of photosynthate in *Ascophyllum nodosum* as it relates to epiphytic *Polysiphonia lanosa*. J. Phycol. 11: 109-113.
- NALEWAJKO, C. 1966. Photosynthesis and excretion in various planktonic algae. Limnol. Oceanogr. 11: 1-10.
- PROVASOLI, L. 1966. Media and prospects for the cultivation of marine algae. p. 63-75. In A. WATANABE and A. HATTORI [ed.] Cultures and Collections of Algae. (Proc. U.S.-Japan Conf. Hakone, Sept. 1966). Jap. Soc. Plant Physiol.
- ROSENBERG, G. and PAERL, H. W. 1981. Nitrogen fixation by blue-green algae associated with the siphonous green seaweed *Codium decorticum*: Effects on ammonium uptake. Mar. Biol. 61: 151-158.
- 鈴木三喜・正置富太郎 1985. 紅藻ウミゾウメンに内生する藍藻の生理学的研究 I. 光合成色素に与える光の波長の影響. 藻類 33: 239-244.
- TURNER, C. H. C. and EVANS, L. V. 1978. Translocation of photoassimilated ^{14}C in the red alga *Polysiphonia lanosa*. Br. phycol. J. 13: 51-55.
- 津谷 旭・重松昭世 1979. ミクロオートラジオグラフィ. p. 72-129. 水平敏知(編) オートラジオグラフィ. 医歯薬出版. 東京.
- UMEZAKI, I. 1961. The marine blue-green algae of Japan. Mem. Coll. Agr., Kyoto Univ. 83: 1-149.

新 刊 紹 介

「ガラモ場—ホンダワラ類の生物学」海洋科学175号, 66pp. 1985, 「海中林—コンブ科植物の生物学」海洋科学186号, 61pp. 1985, 海洋出版 K. K. (各1,500円)

海洋学関係の専門雑誌「海洋科学」にガラモ場と海中林に関する総説がまとめられた。この雑誌は、海洋・水産学分野では知られているが、一般的な雑誌ではないので、ここに内容を紹介したい。

いわゆる藻場造成は、最近各地で試みられており、その基礎的な知識を提供するためにこれらの総説が企画された。「ガラモ場」では、吉田、寺脇、小河、梅崎、奥田、月館、飯倉、今野、大野らによって、ホンダワラ類の分類、形態、生理、生態、造成技術、藻場内の環境などについて書かれている。「海中林」では、右田、川島、金子、秋山、谷口、林田、喜田、新崎、大野らによって、コンブ類、アラメ・カジメ類の分類、交雑、生態、増養殖、造林技術などについて書かれている。各総説は6~7頁にわたり、一般読者向けにわかりやすくまとめられているが、執筆者らがそれぞれの分野の第一線の研究者であるので、自分のデータとともに、多くの報文を紹介している。読者はこの2冊によってホンダワラ類、コンブ科植物に関する研究の最近の動向も知ることができるであろう。

海藻の応用科学の分野では、増養殖、造林技術に関する研究は、世界的視野からみても日本が一步先んじているが、基礎的な研究に欠けるところがある。これらの総説をもとに、さらに藻場・海中林に関する研究が発展することを期待する。

(高知大・海洋生物センター 大野正夫)